

会 議 録

会議の名称	令和 7 年度第 3 回戸田市中心企業振興会議
開催日時	令和 7 年 1 1 月 2 1 日（金） 午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 3 0 分
開催場所	戸田市役所 6 階 第 1 委員会室
会長氏名	結城剛志
出席者氏名 （委員）	結城剛志、安田裕美、徳永光昭、穂苅浩一郎、藍航太、黒井英樹、 今井祐之、高橋一能、松浦睦子
欠席者氏名 （委員）	金子秀一、前澤昭浩、渡邊祐、廣瀬倫理
説明のため出 席した者	なし
事務局	香林部長、清水室長、長谷川担当課長、高橋副主幹、片桐主任、荒生主事
議題	（ 1 ）第 2 次経済戦略プラン原案及びパブリック・コメントの実施 （ 2 ）第 7 期提言書に係る今年度の取組について （ 3 ）第 8 期の研究テーマに関する意見交換
会議結果	会議録のとおり
会議の経過	会議録のとおり
会議資料	別紙のとおり
その他	傍聴人 なし
議事録確定	令和 7 年 1 2 月 2 2 日
発言者	発言内容（以下の記載例は入力時に削除してください）
事務局	（＊ペーパーレス形式で実施） 事前に配布した資料の確認を行う。 （＊委員出席状況について報告） 委員 13 名のうち欠席が 3 名で、10 名の出席となっているため、戸田市中心 企業振興会議規則第 5 条第 3 項で定める半数以上の出席であり、会議は成立す ることをご報告する。 （＊その後、事務局音声機器のトラブルにより、オンラインで参加予定であっ た廣瀬委員が退席し、出席者が 9 名となる。）
会長	（＊傍聴人の確認を行う。傍聴人なし） それでは、早速だが議題の 1 つ目である、第 2 次経済戦略プランの原案とパブ リック・コメントの実施について審議を行う。 事務局から説明をお願いする。
事務局	【議題 1】第 2 次経済戦略プラン原案及びパブリック・コメントの実施 会議資料に基づき事務局より説明

会長	戸田市の経済戦略プランということで、中小企業の振興に一番深く関わる戸田市の計画である。現行の「戸田市経済戦略プラン」の改定に関しては、前の期（第7期）から振興会議の委員を務めている者たちが審議を行い、審議された内容が資料の「第2次戸田市経済戦略プラン（案）」に反映され、事務局より提出された。委員の皆さんの意見を改めて聞きたいということである。なお、本会議後、来年1月8日から市民に向けて本プランに関するパブリック・コメントが実施されるという流れである。意見や質問があれば挙手をお願いする。
委員	資料1の5ページについて、中小企業等への奨学金返還支援の補助金は、県の補助金に戸田市で上乗せするという考え方であるか。
事務局	本件は議題2で説明する予定ではあるが、質問があったので回答したい。埼玉県補助金の上乗せについて、提言に入れていただいたところである。ただ上乗せとなると企業の負担が増えて対象が絞られることから、広く市内企業に使っていただけるような制度にできないかと検討し、上乗せではなく単独での実施について進めているところである。
委員	県と市でそれぞれ補助金の申請ができるということであるか。
事務局	市の補助金は、市のみに申請をしていただく設計である。
委員	中小企業家同友会のほうでも県の補助金に申請している事業者があるが、その場合、市の補助金は申請できないということか。
事務局	現在、市の方が負担の割合や使い勝手の面で良くなるような制度の設計を考えている。ただ一方で制限もあり、補助金の対象者を「市民かつ市内事業者に就職をした方」とする方針としたい。そのケースに該当する場合は市の補助金の方がより支援が受けられるが、それ以外の、例えば市外の従業員に関しては県の制度を使っていただくようなかたちになるかと思う。
委員	承知した。
会長	他の点ではどうか。
委員	「戸田市ゼロカーボン推進補助金」について、法人ではあまり使われておらず、個人の申請が多いという説明であったが、今年もそのままいくかたちか。法人の方で使われていない理由等はあるのか。今回使われている予算割合は97%だったので、もう今年は終わったものという形でホームページを見ていたが、法人に向けてもう少し利用促進できるようなことがあるのではないかと考えた。
事務局	こちらに関しては所管が環境課となるため詳しく説明できないが、今年度から補助金の形態を変え、制度として個別で行っていたものを一つにまとめたというところもあるため、事業者というよりか個人の申請が増えてきたのではという印象である。事業者に対しての支援というところは引き続き確認する。
会長	他はいかがか。特になければ先に進める。 二つ目の議題は、第7期提言書に係る今年度の取組についてである。 事務局から説明をお願いする。

事務局	【議題2】第7期提言書に係る今年度の取組について 会議資料に基づき事務局より説明
会長	第7期提言書とは、この振興会議で今年4月に作成した提言書である。 4月末に市長に直接手渡しさせていただいたもので、振興会議として市にこう いうことをやってほしいということを提言書としてまとめ、お願いしてきたも のである。すでに市で実施していただいたものについては、今回、事務局より 説明いただいた。皆様から意見や質問があればお願いしたい。
委員	番の合同説明会の開催について、このチラシを見ると申込期限が11月14日で 現在は締め切られているのだが、現状を教えてほしい。
事務局	本日時点で締切を過ぎているが、定員の15社まで達しなかったというところか あり、期間を1週間延長して本日まで募集を行っているという状況である。延 長した期間で申し込みのあった事業所数の把握はしていないが、まだ数日前の 時点では枠の空きがあったという状況である。
会長	他に意見はあるか。
委員	事業承継に関する進捗状況について、セミナー等については前倒しで実施等し ていただいているところであり、1月に開催を予定している個別相談会の定員 は4事業者ということで、実際に参加していただく事業者数は少ないと思う が、是非、事業者の方の声というかニーズも把握いただきたい。その他、来年 度以降も継続して調査・研究をしていくということで、企業訪問相談員制度や 補助金等について、ニーズなど事業者自身の声を聞いていただきながら、調 査・研究に生かしていただきたい。
会長	その他にあるか。
委員	SDGsの周知を図るということでイオンで展示をされたが、例えばどのような方 が来たかなど、人数やそういった数値的な部分についての報告はあるか。
事務局	展示の場に誰かがいて来場者数をカウントをしていたわけではないため、正 直、何名見ていただいていたかという具体的な数字までは把握はしてい ないが、市としてSDGsのPRという部分と経済戦略室の担うSDGsパートナーのPRとい う部分を併せて行い、2週間程度の期間、ブースとしては大きなスペースで展 示をさせていただいたので、かなり多くの方に見ていただいたのではないかと 思っている。
委員	承知した。
会長	他にあるか。
委員	先程のイオンでのSDGs展示の質問に関連して、展示をされたということは、ど のような成果を狙い、効果測定の部分も考えて出されたと思うが、それはどの ような基準でどのように生かされたということを教えてほしい。
事務局	今の定量的な目標という点について、この部分を目標として掲げて行ったとい うよりは、企業や市民を含めた形でSDGsの認知を向上する取り組みで、アウ トプットの部分での数を増やすというようなところの一つだったかと思ってい る。経済戦略室としては企業側のSDGsの部分を所管しているので、その辺りも 今後は考えて進めていきたいと思う。御意見感謝する。

委員	やはり何か成果を得られないと、展示として出された側のほうもモチベーションがなかなか上がらず、今後の取り組みの継続性というところに疑念が出てくるので、そこのところ御自分達が継続できるような測定であったり効果を得られるような仕組みが必要ではないかと思う。
会長	今の件に関して、イオンの担当者の方から評判や状況のようなものは確認したか。
事務局	未確認である。このイベント自体メインの所管は共創企画課というところであるので、改めてそちらにも確認を行いたい。
委員	少しよろしいか。戸田市の合同説明会の開催について、申し訳ない、私が見ていないだけかもしれないが、このパンフレットを初めて見たのだが、どういふうに広報をしたのか。
事務局	今年度は商工会と連携をとって合同説明会を行うというところで、商工会の会報誌のYOUR（ユアー）に挟み込みを行い、そちらから申込みをしていただくという流れで行っている。
委員	申し訳ないが、この合同説明会のイベントのことを知らなかった。SNSなどを使って告知すると有意義ではないか。例えば戸田市の公式LINEには私も登録しているが、毎日市からのお知らせが届く。公式LINEなどに掲載するのもよいと思うし、もう少し広く告知してはどうか。 また、商工会に入っているので会報誌など届くが、おそらく私たちのような経営側には情報が回って来ず、事務の担当者が確認した後、知らないまますぎてしまうということもある。今回とても良い取組であると思うため、もっと違いかたちでPRを行い、取組を知ってもらおうということはとても大切ではないかと思う。
事務局	市内での合同説明会については昨年度から実施し、昨年度は介護・医療に関する部門を対象に、今年度に関しては商工会と連携をして行っている。 正直に言えば、どれくらいの事業所に手を挙げていただけるかということもわからなかった状況と、今回会場の文化会館のスペースの都合で15社が上限ではないかというところで、あまり応募が多すぎてもという状況もあったため、商工会の会報誌での周知を選択したところである。 実際に今年度に関して、高校教諭と市内事業者との顔合わせというところも初めてやらせていただいて、そこでは企業数もかなり来ていたと思っており、そういったような多くの方がこれもすぐに手が挙がって満員になってしまうのではないかとこのところもあったため、告知が届きにくいようになってしまったのではないかと思う。
委員	高校生を対象とした合同説明会には私も参加させていただいたが、あれは良かった。
事務局	一度そういったやり方で行い、反響を見ながら次年度はまた改善を進めたいと思う。
委員	あとは、せっかくハローワークに情報を出したからといって、言い方が悪いが学生はなかなか来ない。同友会で共同求人というのを行っており、大学を回ったりしたが、簡単なものではない。そのため、逆に集客のほうに関してはもっと大きく情報を出していってもらいたいと思う。
事務局	御意見に感謝する。

委員	<p>うちは合同説明会に申込んだが、商工会でチラシをもらったから知った。ただ、これはどことの合同であるか。最近、うちではハローワーク経由で求人に応募した人というのは1人もいない。ハローワークを使って就職する人はどれほどいるのかと思っている。求人サイトなど様々なサイトから応募してくる人が圧倒的に多い。だから今度の合同説明会がどれほど効果があるのか、結果を楽しみにしている。</p> <p>もう1つは、この合同説明会が求職者にどれほど情報として伝わるのかどうか、そっちのほうに心配に思う。開催日が金曜日で平日なので、学生と今、無職でいる人しか応募できないのではないかという感じもする。今回の募集内容は、転職というか中途採用でもよいのか。</p>
事務局	その通りである。
委員	そのため金曜日となると、おそらく今は退職して無職の人が応募するか、あとは学生でこれから就職しようとしている人が応募するかと思っている。重ねてとなるが、求職する人に情報が伝わるようお願いしたい。
事務局	<p>合同説明会は新卒というよりは中途採用の方向けのものになる。事業自体が、商工会とハローワークと市との連携事業というかたちで、ハローワークの求職を条件にしている。</p> <p>介護・医療の分野で実施した昨年の実績で言うと、40数名の方が会場に来て、そこでの内定も何名か出ているというところである。実際に参加をした企業の全てが採用できるというものではないと思うが、一定の効果としては実績としてあったのかと思う。ただ、今年度やり方を変えている部分もあるため、今回の結果も踏まえて来年度に引き続き改善を図っていきたいと考えている。</p>
委員	<p>先程の委員の発言の通り、新卒と既卒の就職というのは入口が全然違う。そのため、新卒の方もぜひ計画をしていただきたいと思う。新卒を採ろうとして頑張っているところがたくさんあるため、そちらのほうも企画していくとよい。新卒と既卒ではプロセスも違うし、訴求の仕方も違うと思う。</p>
事務局	こちらも引き続き、研究をさせていただきたい。
会長	<p>この合同就職説明会のチラシではターゲットがわかりにくいと感じる。中途採用がメインターゲットだということがわかったが、そういうものであればもう少しターゲットに訴求できるようなかたちで説明したほうがよいのではないか。</p> <p>就職状況がよいといっても、新卒の学生でのんびりしている人もいるが、2月というタイミングではもう学生は来ないような気もする。新卒向けは新卒向けで、やはり地元で働きたい学生がいるため、新卒向けの企画もあってよいのではないかと感じた。特に大手の求人サイトでは情報がまぎれてしまうため、求人サイトの中でアピールするというのはなかなか難しい。学生のほうも大量のメールが来るなどしてかなり混乱する状況にあり、そういったものとの差別化もしやすい取り組みだと思うので、ぜひ検討してほしい。</p>
委員	(実施時期について) なぜ2月を選択したのか。

事務局	4月に提言を受けて実施に向けて検討を行っていく中で、準備に時間的な余裕が必要だったというところで2月に決まったものであり、2月に固定するものではない。そのため実施時期については引き続き検討していきたい。あと、戸田市でこのような説明会を行うときに、会場が課題になってくる。大きな会場の確保が難しいというところもあるため、場所に関しても検討できればと考えている。
委員	企業行動をメインに考えなければ、集まるところも集まらないのではないかと。2月というのは、4月入社にしてもかなり人事部などそのようなところがバタバタして、企業側の負担が増えてしまうのではないかとという疑念がある。そして会長の発言の通り、チラシ自体に対象をもう少し明確に書いてしまったほうがよいのではないかと。これでは何を言いたいのかわかりにくいというのは私も同感である。
会長	他にあるか。よろしいか。
委員	少し前段があるのだが、アメリカでは新卒採用希望の方が結構採用されていないという現状があるようである。ホワイトカラーの業務はほとんどAIが賄っているという状態であるため、シニア層だけでまわしている状況である。ブルーカラーの就職のほうに進んでいる方が多いということは聞いた。おそらく5年後くらいに、日本でも同じような流れが来るとは思う。 自社ではコードを書いたりプログラミングなどで事業を行っているが、現状、既に管理というかたちでやっている。ほとんどコードを書かないでやれているということなので、今後おそらくホワイトカラーは特に管理がベースになってくるのではないかと。その一方で、ブルーカラーのほうに就職や需要が結構高まるのではないかと。そういうふうには思う。 そのため、DXの推進補助金について、そういった将来に向けて、アメリカの現状があるからこそ、このようにしたほうが良いというプロセスなどがあるのかと思ったのだが、いかがか。
事務局	実際にDX推進補助金を行っているのだが、そこまで先を見据えたものというよりは、単年度の事業であるため、その時点で企業側がデジタル化として必要な部分の補助を行っているというのが現状になる。一方で国もDXに関しての補助金は出しているかと思うのだが、市の場合はその申請まで至らない方も使っただけのような、ある意味ハードルを少し下げているような使い方もできているようなところもあるので、どの部分に合わせるかというところはあるのだが、現状でいうと利用しやすいようなところでの補助金というところが現状かと思う。
委員	今のDXのところだが、そのDXの中にはAIは含まれるかと思う。DXは既に行き渡っており、今度「AI推進」という言葉に変えたらどうかと思っている。例えばチャットなどはできるのだが、実践で上手く使いこなせないのである。だからDXと言ってもいいのだが、やはりAIにしたらどうかと思っている。「AI推進」にしたらどうかと思っているのだが、その辺りはいかがか。
事務局	提言の中でもAIやSNS等の活用支援というところをいただいていたため、引き続きAIの部分に関しても考えていく必要があるかと思う。あとはDXで「トランスフォーメーション」の部分で「X」の部分の意味になるかと思うのだが、先ほど委員の発言の通り、DXというよりは、デジタル化推進の部分の支援が多くなってきているのが現状かと思うので、その分の上のステップというところも活用できるものがないか。その他に、補助金でいいのか、セミナー等を通じた第一歩というところがいいのかは引き続き考えていければと思う。

事務局	事例集を作成するということで進めているのだが、DX補助金といいながらも申請の中身は割とデジタル化やシステムを導入しました、というような内容のものが意外と多く、皆さんDXの「トランスフォーメーション」で業務改善とか生産性向上というところまでをもちろん視野に入れて当然取り組んではいるのだが、単純なシステム化というものの申請を多くいただいているので、そういった事業者を支援しつつ、AIやSNSに関しても、別で市の方でもポリテクセンターとの共同でセミナー等を行って支援をしていきたいと思っている。
委員	おそらく業態によって温度差がありますよね。
事務局	その通りである。
委員	一つだけよろしいか。しつこいようだが合同説明会、新卒を対象に行うのであれば、私の会社も今年3人新卒採ったのだが、3人採ることも本当に大変であった。私が大学で授業を行っており、そこから学生を引っ張ってくるのだが、地元志向の学生を採っていく説明会は夏以降や夏ぐらいがお勧めである。やはりトップシーズンは皆一斉に説明会を受けるので、少し落ち着いてくると学生たちもどうしようかと考えたりして、夏ぐらいに方向性を決める学生のほうが、結構地元企業に目を向けてくれるのではと、おそらく会長も事情をご存じと思うのだが、少し遅れて来た人のほうがよいのではないかと思う。先ほど別の委員からもあった、実施する時期というのはとても大切なため参考までに。
会長	私から一点だけ確認させていただいてもよろしいか。 AIの話が委員から出たが、AIの推進として具体的にどういったものを考えているのか。私の研究する分野では、AI推進にあたって一番の障害が法律、権利なのである。そちらの専門家が育っていなければ、技術的にいくら発展しても、我々情報を自由にフリーで売り渡すことはできないため、知的財産権に関する権利を、契約を結んでAIをやるかというところが一番のハードルなので、そういったところで人材育成ができてくるともう少し進めやすいのかと感じている。
事務局	まだどの部分をやっていくかというところは固まっていないところではあるのだが、まずその時代に乗遅れない、乗遅れている方というのかそういった企業向けにやっていくというところは行政としてボトムアップの支援が必要になってくるのかと思っている。どのようなかたちでやるかというところはご意見をいただいたので、引き続き事務局としても考えていければと思う。
会長	ではよろしいか。 最後の議題として、第8期の研究テーマに関する意見交換についてである。事務局から説明をお願いします。
事務局	【議題3】第8期の研究テーマに関する意見交換 会議資料に基づき事務局より説明

会長

議題3は意見交換ということで、8期は今の期で今日が今年度第3回目の会議となる。第4回目はパブリック・コメントの結果の確認だけであるため、来年の5月から始まる5回目、6回目、7回目の約半年間の期間で、できるようなこと、考えたいこと、研究したいことは何かということをお客様からご意見を賜りたい。議論するというよりは、まず自由に皆様のご意見や、ご感想をお話いただき、来年の振興会議の企画につなげていきたいと考えている。
これまでは「人材確保」「雇用の問題」に主に着目して進めてきたが、これで充分ではなければこれをさらに発展させるのであったり、もっとDX、AI関連に力を注ぐべきであるなど、様々な意見があろうかと思う。事務局案として5つ提案をしていただいたので、そちらも参考にさせていただきながら、できれば全員の皆様からご発言いただければと思う。

委員

私は若手人材の定着を促す企業の魅力戦力というところをとってもよいと思っており、人材確保をどうしていくのかというのは、もう少し深掘りする必要があるのかなと思いながら、企業に入って定着してもらおうということと、後は本当に中小企業で大事なことというのは「ブランディング」だと思っていて、大学の授業やいろんなところで私もブランディングの話をさせてもらっているが、とても大切なキーワードかと思うため、採用支援や定着支援などという意味でとても興味深いし、それを戸田市としてやっていくのであれば、なおさら面白いと少し感じた。
あとはこの中でいうとDXである。先程別の委員からも話があったが、どのように進めたらよいのかというのは、もう少しお話してもよいのではないかとということと、あともう一つSDGsパートナーである。うちも取らせていただいたが結構良くて、作成した動画は、結構SNSとかで使わせてもらったりしている。なので社内でうちの会社を後回しにしではいけないという認識が、少しずつでも高まってきたのではないかと考えたところにもう少し具体化できるとよいのではないかと。
プライオリティの順番は、1番から2番、3番というイメージかなと思う。

委員

1番手の委員と重なっているが、先程の合同説明会のところでの新卒OKの話があった通りで、このところすごく重要ではないかと思う。まして戸田市内の中小企業の皆さんにとっても必要ではないかと思う。私も銀行のほうで中小企業の方の皆さんの幅広い相談会みたいなのを行っているのだが、最近多いのは採用である。採用をどのようにという話が基本である。今の若者たちはどうしてもホームページやネットで見ると、インスタにしても何にしても同じく見るというところが多いと思うが、大体来る企業はホームページやネットを整備していない。「うちは募集はハローワークに出しているから（必要ない）」、「いや、若者はハローワークに（なかなか）行かないから（集まらない）」という話で、ミスマッチが起きているというのが実際の現場だと思う。
そういうところを我々は逆にDXなどの力を使って、今からでも遅くはないから、ホームページなどを整備したほうがいい、それを活用したほうがいいってというのはお話をさせていただいているので、そういうところも現場サイドで言えば、全中小企業の皆さんにとってもまだまだ足りないところがあると思うので、そこを若手人材を定着させるということについては、行政が支援するということにはすごく意義があると思う。

委員

あと1点。SDGsパートナーについて、私どももSDGsの取得はやっているが、逆の発想で言うと、もし市の会議としてテーマであげるとするとたぶん次が最後だと思う。

SDGsの目標は2030年がゴールになっていることから、この会議でいうところのスケジュールでいうとその次は2027年から入って2028年に議題出しを行い、2029年のところで提言するということになると、もうその次の年がゴールであるため、既に今の時点でも次はSWGsではないかとかという話が出ている中で、ひょっとすると一気にそこを飛び越えて、この議論の次の時にはもう途中でその先の話が出てきてしまう可能性があるのも、行政のテーマとして考えるとするのであれば、ここがおそらく最後ではないかなと思う。なので、SDGsはもしその中で検討するのであればあげてもいいのではないかなというのは、個人的な考えである。

あと3番目は挙げていただいた中でいえば、賑わいの創出であるとか税収のこと、様々と今まさに税収はガソリン税が暫定税率廃止など様々な動きがあるなかで、市としての地方税の交付、いわゆる行政側とすれば、収入を確保したいということなのでいくなれば、やはりふるさと納税をここまで、今も先程事務局の発表から昨年度を上まわった実績がとおりになるということで、そこを強化するというのでいえば、さらにここをテーマとして挙げて強化をして市内の方々、事業者の方々、他市の方から集めるということには意義があると思う。

委員

5つのテーマで共通の話題としては「魅力発信」といったところなのかなと思う。雇用のためのものということもそうであるし、それからふるさと納税を使った販路拡大もやっぱりそうであるし、SDGsもそういう1つの面もあると思うので、魅力発信をしながら雇用につながるような情報発信と、魅力を磨いていくということとはとても大切であると思うので、今ある魅力をもう一度、再発見することなどを考えていく施策を検討していくというのが必要なのではないかなと思う。

DXに関しては、私も戸田市のDX補助金の申請の支援はオレンジキューブで行っているが、おっしゃる通りホームページがまだない事業者はホームページの整備から始めることは大切であるし、（DX補助金の対象について）DXというのは本当にレベルの高いものでなければ採用しませんと言われると、おそらく皆さん本当に困られると思うので、ぜひそういったところはしっかりとやっていただきたい。

AIを使う方は本当に普段のご相談でも増えており、皆さん思ったより使っているという感じがしている。

どのように使っているかは私はわからないが、お金はそれほどかからないのであろうか。私の支援をするレベルだと、AIを活用する方だといって、あまり補助金につながる、補助金がないとAIの活用ができない、ということではないように見ていたので、幅広く皆さんの支援につなげてほしいということは、普段の支援で強く思っているところであるため付け足した。

委員

そしてSDGsの話、この次の世代ということで話がありましたが、カーボンニュートラルの補助金の支援で、法人の方に対する意識、啓蒙活動などができるのは市の強みであると思っているので、SDGsパートナーもいいと思うし、それにちょっと付随してもよいと思うが、もう少しカーボンニュートラルであるか、そのようなものの普及につながるようなものは、まだまだ支援のやり方が固まっておらず、戸田の市内の企業で、そこまで見えづらいと言われるかもしれないが、しかし啓蒙活動としては市としてやっていくべきテーマなのではないかなと思うため、ぜひ視点をもう少し広げて、環境経営ということも魅力発信につながるかもしれないため、そういったところからもテーマを広くとってもらえると嬉しいと感じている。

委員

私は1番から5番までどれもとても良い内容だと思っているので、特に何も無い。ただいつも感じていることが1つある。それは実行するのは戸田市の職員なので職員の人たちがワクワクするような内容、元気が出てくるような内容にしたらどうかと思っている。戸田市の職員の人たちが、これ面白い是非やってみたいと思うようなものをテーマに挙げられたら良いと思っている。なんとなくであるが、戸田市の人達はあんまり元気がないような。是非、戸田市に就職して良かったと思えるようなテーマを我々が行ってはどうかと私は感じている。

私は会社におり様々行っているが、社員が社長のためにやっているというものはおおよそ良いものが出てこないのである。自分のところの社員、職員が是非やってみたいとかワクワクするなど、そういうものであると熱が入ってくるのである。ところが、社長が言うから仕方なく行っているものは全然あまりいいものが出てこない。最低限のことしかやってくれない。

ここの会議も戸田市の職員の人元気になるようなテーマになるようにできたらなというように思っている。

委員

まず案の作成感謝する。今の発言の通り、元気にワクワクというところから言うと、私はDXやAIなどを実際に戸田市内の事業者に対して、お客様に対して提案したりとか、こんなことできるとか、もっと早く自分と会いたかったと言われるような行動を普段しているのであるが、それで言えば、今回これをペーパーレス化しているところを踏まえて、市としてAIを活用してきた結果、このように業務がはかどったということを発信してみたり、費用の面に関しても、たとえば普通の一般的に普及してるAIであると月3000円ほどである。

年間で考えたとき、半分くらい補助できると。入口を少し小さくできると、その部分を大分活用のしやすさが増えると思うところである。

そしてAIさえ使えてしまえば、他のDXやAI以外の項目でもそれこそ新卒を集めるための募集要項を作るないし、動画、企業PRの構成、プランニングをどうするかということにも汎用できると思う。

委員

この事務局案を見て感じたこととして、市として企業の基礎体力を作りたいのか、その上のものを育成していききたいのか、2種類のテーマが混在していると感じた。どちらに力を入れてワクワクして取り組めるのか、というところで考えたらよいと思う。そして付け加えていただきたいのはBCPの観点である。そちらが今注目を浴びて、対策を取らなければいけないという国を挙げての姿勢が見えている中、無視することはできないかと思う。SDGsも大切である。これは若手人材というところに着目すると、そのSDGsにいかに取り組んでいるのか、というところがやはり若い人たちの注目点ということを考えると、関連して考えていくべき事柄かと思う。

そのため全てを切り離すということではなく、まず腰を据えてどこを行いたいのか、その上で国の施策、若者の視点、それを組み合わせていくと、おのずと見えてくるのではないかと思うところである。

委員

事務局案もそうであるが、自分の経験からすると、それぞれの項目に幅広くというのは自分の観点で話することしかできないため、我々の強みとしては、起業であったりとか事業承継とかという資金調達の面での教え、経験をもとにここで話をするというところであると思う。

そもそも会議の意図としてはやはり戸田市内の中小企業の方々がどう広がり発展していくかということであると思うため、当然事業所のニーズ、こういった取り組みをぜひ市として行ってほしいというものをベースに事務局案を考えていると思うため、この中で議論をするということは非常によい取り組みであると思う。

私はテーマを幅広くやるというよりは、せっかくの研究という位置付けでもあるので、何かテーマをかなり絞ってというか、今日の議論の中ではやはり皆さん人材に関する話といえばそれぞれ考えがあったりであるなど、様々な意見もあると思うため、何かテーマを絞るというよりは、その人材の中でもさらにテーマを絞り深掘りをしていくというようなことで様々議論をすることがあるとよいのかなということが私の方では考えたところである。

委員

まず、事務局はこの資料作成に膨大な時間をかけたと思うため、感謝申し上げたい。まだ2回目の出席ではあるが、その立場から話をする、おそらく膨大な資料をこの一年、またはその期間で作られていたと思う。事務局の方の負担というのは大きかったと思うところである。データの作成であったり、プレゼン資料のまとめであったり、最終チェックであったり、かなり時間はかかったのではないかなと思う。

まだ2回目ではあるが、このような資料を作ったほうがいいとか、このようなデータがほしいなど、そういったものをもう少し細かく、必要か必要ではないかというものを見極め、本当に使うのかどうかというものを話をした上で、事務局に作成をお願いしたほうが、双方にとってよいのではないかなと思うため、そのような形で進めていければよいのではないかなと思う。

会長

最後の委員のお話はもっともであると感じた。本来、この会議は会議が運営の主体になっており、事務局にその運営をお願いすべきものであるが、他の委員会と同じように、事実的には事務局が原案の作成を行い、それを我々が審議するというかたちになっているため、会議という形であるが、それをできるだけ主体的に運営できるような運営方法も模索していく必要があるのではないかなと感じた。

皆様の話を伺い、事務局がまず普段から頑張っており、とてもよい原案、事務局案を作成していると思う。やはり戸田市としてこれを進めたらよいという元気が出るなというような案に落ち着くのが一番望ましいんだろうと考えているところである。

私自身の最近の感想も含めて述べると、やはり1番の「若手人材の確保と地元定着」というのが皆さんの共通の願いではないかなと感じている。

ブランディングの内容はぜひ伺いたいと感じたが、企業のブランディングのようなものを進め、戸田市内にまずこういった事業者があるのかということを見本市というようなかたちで市民に提示できたらよいのではないかなと感じた。私が普段学生と接している中で、中小企業事業者の方を年に10人くらいの方を招き、学生に話してディスカッションする機会を作っているが、そのなかでやはり学生が関心を持つのは、SDGsという言葉は特に使わないが、企業活動が人々の幸福追求にどのように貢献しているのかということや学生に伝えるということが学生の就職活動にとっては非常に重要になっている。そのような話を上手にさせていただくと、求人サイトで埋もれてしまうような企業でも意外と求人サイトでは探せなかったけれども、ホームページでは見つけたとなるのではないかな。

会長	<p>求人サイトとは別に、企業のホームページで独自の募集をしていれば、そちらに直接申込んで就職活動をするということも聞いているので、ウェブ対応というDX以前のところでも進めていただくと、人々の目に止まる機会が増えて求人活動としては有益になってくるのではないかと考えている。</p> <p>このDX、AI、それからネット対応、おそらく事業者によってかなり進み具合の違いがあり、どこをターゲットにするかによっても制度設計が変わってくるんだろうと思う。コストはかなりバラつきがあると思う。</p> <p>うちで見積りをとったら数千万という、やはり少し規模が大きすぎるのでなかなか年間のフローとして支払っていくのは厳しいというようなこともあったが、コストや知財保護など様々な面でネックになっているものがあると思うので、そういうものを一つひとつサポートしてあげることができれば、市内の事業者にとっては有益なのではないかと感じた。</p> <p>特に私からまとめることはしないが、少し時間はあるので、さらにこれだけはこのことがあれば発言をお願いする。</p>
委員	<p>6、7年前の事例になるが、神奈川県のアシカ市のほうでは、市が市内の事業者のホームページを、1枚の用紙からまとめてサイトを作るということを行っていた。そのところで簡単なものであるため、できないところには専門家を派遣し、同じフォームで作るということをしていた時期がある。座間市もおそらく行っていたのではないかなと思う。</p> <p>東京都の下町と言われている台東区などその辺りも何か同じような動きをしていたことがあるため、まず簡単なフォームで作れるのだというところで、サイト作りのアレルギーを取り除き、その上で自社のホームページに乗り出していくというところをサポートしても、道筋としては一つあるのではないかなと思う。</p>
会長	<p>では本日皆様からいただいた意見は、事務局に集約してもらい、来年度の2月末から書面でまとめたものを提示してもらうということである。</p>
事務局	<p>了承した。書面会議の本開催の前に、何度かメールでやり取りを行い、集約したものから案をさらに絞り、概要等も含め提示する。その都度意見をいただくとということで、最終的にこの書面会議で確定できればと思う。</p>
会長	<p>では、もう意見がないようであれば、本日の議題は以上になる。 では議事の進行は事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>最後に事務局よりその他連絡事項がある。</p>
事務局	<p>【説明】会議資料に基づき事務局より説明 「景気動向調査の実施について」 「今後のスケジュールについて」</p>
事務局	<p>事務局からは以上である。 委員の皆様から質問等はあるか。 ないようであったら令和7年度第3回戸田市中小企業振興会議を閉会とする。</p>